

60073

教科書文庫

6
760
34-1950
20000 66785

C Y M

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak

inches

cm

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

Kodak Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

教科書文庫
6
760
34-1950
2000066785

文部省検定済教科書

新しい音楽

10 小音506
春陽

中野 義 晃
小島 喜久寿 岡本 敏明
共 編



広島大学図書
2000066785

五年

東京春陽堂発行

3a
760
8825



まえがき

四年までは、楽しく歌ったり、
がっそうしたり、りっぱな曲をき
いたりすることを、おもに べん
きょうしてきました。

ことしからは、曲の形や、和音
や、楽譜のべんきょうを 加えて
あります。

いろいろの説明をよく読んで、
歌ったり、ひいたり、作ったり、
きいたりして、音楽の楽しさと美
しさを よく味わいましょう。

昭和二十五年

文部省検定済

-1-

小学校音楽科用

資料室

新しい音楽

五年

教科書文庫

6

760

34-1950

2000066785

広島大学図書

2000066785



東京 春陽堂 発行



も く じ

一	朝のうた	4
二	うれし 楽し 春は来ぬ	6
三	わたしのかだん	8
四	こいのぼり	10
五	夏は来ぬ	12
六	るすばん	14
七	雨だれ	16
八	子どもの野球	18
九	海	22
十	祭りのたいこ	24
十一	浮れこきゅう	26
十二	はぎ	30



十三	秋の山	32
十四	雲	34
十五	こきょうの人々	36
十六	母のうた	40
十七	思い出	42
十八	冬景色	46
十九	とうだいもり	48
二十	子もりうた	50
二十一	チラチラ雪	52
二十二	スキイ	54
二十三	春をよぶ	58
二十四	野ばら	60

うれし 楽し 春は来ぬ

遠山雅子 作詞
ドイツ民謡

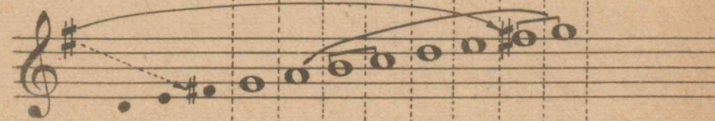
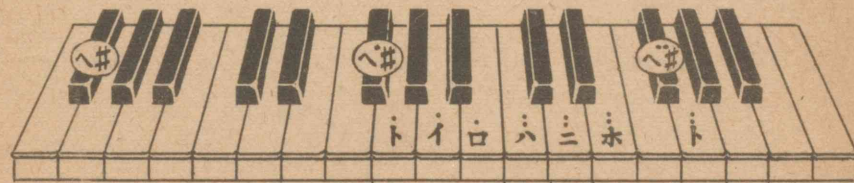
♩ = 116
mf

うれしたのしはるはきぬ ひばりそ
うれしたのしはるはき
らにた かーくーうーたいはなはさ
ぬ ひばりそらにた かーくーうー
きてか おーりーみーちぬうれした
たいはなはさ きてか おーりーみー
のしはるはきぬ
ちぬうれしたのしはるはきぬ

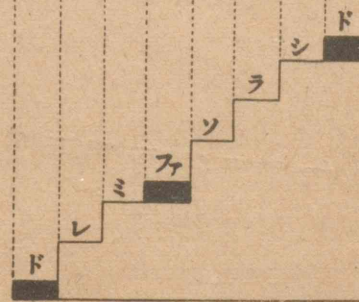
● 高い音と低い音が、むらのないように、声をだしましょう。

うれし 楽し 春は来ぬ。
うれし 楽し 春は来ぬ。
うれし 楽し 春は来ぬ。
うれし 楽し 春は来ぬ。
うれし 楽し 春は来ぬ。
うれし 楽し 春は来ぬ。

ト長調の音階



ト音をドとしてはじまる音階をト長調といいます。＃は嬰記号(シャープ)といいます。半音あげるしるしです。どうして＃をつけるのでしょうか。音の階段とけんぱんとくらべながら、音をならしてみましよう。



● ト長調の階名で 歌ってみましよう。

わたしのかだん

葛原 齋 作詞
イギリスの曲

$\text{♩} = 96$
mp

きれいにさいたよわたしのはなが

むらさきあかし ろももいろきいろ

mf

あれあれヒラヒーラまうよちやうも

mp

きれいなきれいなわたしのはなが

●一だんのふしと同じふし、ちがうふしをしらべてみましょう。

わたしの	きれいな	まうよ	あれ	もいろ	むらさき	わたしの	きれいに	わたしの
はなが。	きれいな	ちやうも。	あれ	きいろ	赤白	はなが。	さいたよ、	わたしの
			ヒラ	ヒラ				かだん

●口びるをとじて、ハンミングでうたいましょう。マ(ミ.ム.メ.モ)でもうたいましょう。

こいのぼり

作詞作曲不明

♩ = 96
mf

い - ら - か の な - み - と
も - も - せ の た - き - を

く - も - の な み か - さ - な る
お - ど - り こ え あ - お - ぞ ら

な - み - の な - か - ぞ ら
め - が - け の - ぼ - り ゆ

mp

を く たちばな か - お - る
わがみに に - よ - や

f

あ さ - か せ に た か く
お の - こ ら と そ ら に

お - よ - ぐ や こい - の ぼ り
お - ど - る や こい の ぼ り

こいのぼり

いらかのなみと
かさなるなみの
たちばなかおる
たかく泳ぐや
ももせのたきを
あおぞらめがけ
わが身に似よや
空におどるや

くものなみ、
なかぞらを、
朝風に、
こいのぼり。

おどりこえ、
のぼりゆく。
おのこらと、
こいのぼり。

●四分音ぶを せい唱で、二分音ぶを合唱で、うたいましょう。

●四分音ぶのところを 同じ和音の音で いろいろにかえて作ってみましょう。

夏は来ぬ

詞作 網之助 信之助 木山 佐々木

$\text{♩} = 100$
mp

う の は な に お え る か き に
二 さ つ き や み ほ た る は ひ か り

ほ と と き す は や な き い で て て
く い な な き う の は な さ き て

し の び ね も ら す な
さ な え を う え わ た す な

つ — は き ぬ
つ — は き ぬ

- 二人で 歌って みましょう。
- このふしを ふえて 練習 しましょう。高音のふしが ふけるよ
うになつたら、低音のふしを練習して、二部でふいて みましょう。

夏は来ぬ

う の 花、
におえるかきに、
ほととぎす
早 鳴きいでて、
しのびねもらす
夏は来ぬ。
二
さ月やみ、
ほたるは ひかり、
くいな鳴き、
うの花さきて、
さなえを植えわたす、
夏は来ぬ。

- ことばを はつきりそろえて 読むように、うたい しょう。

ドミソのわおん—ドファラのわおん—ドミソのわおん—シレソのわおん

ドミソのわおん—くそろえて うたい ま しょう

ドミソのわおん は つぎのように うたい しょう。

ドミソのわおん ———

るすばん

菊池知勇 作詞
イギリスの曲

$\text{♩} = 96$
mp

— おひさま やつてに いる けれど どど
 二 こばちが つつじに くる けれど どど
 三 そよかせ やなぎを ふく けれど どど

mf

る すい は さびしい た だ ひ と り
 る すい は さびしい た だ ひ と り
 る すい は さびしい た だ ひ と り

- この曲は ト長調と同じしるしが書いてありますが、終りの音ぶは 何という音でしょう。ト長調と くらべてみましょう。この曲は どんな感じでしょう。
 にぎやか、 静か、 さびしい、 元気、

る す ば ん

お日さま やつてに
 いるけれど、 さびしい
 ただひひとり。
 小ばちが つつじに
 来るけれど、 さびしい
 ただひひとり。
 そよかせ やなぎを
 ふくけれど、 さびしい
 ただひひとり。
 三

イ ン グ リ ッ シ ュ
ホ ル ン



- この楽器は どんな音がするでしょう。これに似た音のする楽器を思い出しましょう。

雨だれ

岩佐東一郎 作詞
メーヤー 作曲

$\text{♩} = 100$
mf

一あまだれがおちているまど
二あまだれのおとがするめを

のそとののきばからみているときれ
はつぶりみみすましきいてるとたの

mf

いだないとにぬいたたまよ
しいなピアノならすおとよ

雨だれ

雨だれが落ちてい、
まどのそとののきばから、
みているときれいだな、
糸に貫いた玉よ。

二

雨だれの音がする。
目をばつぶり、耳すまし、
きいてるとたのしいな、
ピアノならす音よ。

●はじめのうちは、終りの三うちとあわせて、一小節の長さになります。

●このふしは 下に書いてある和音の中の音で できています。うたってみましょう。ことばも 付けてみましょう。

●この和音で、ちがったふしをつくってみましょう。

●できたら、ことばを付けて うたいましょう。

子どもの野球

藪田義雄 作詞
平井保喜 作曲

♩ = 112

トライアングル
カ斯塔ネット
シンバル
タンブリン

小だいこ
大だいこ

Musical score for percussion and piano introduction. It includes staves for Triangle, Castanets, Tambourine, and Piano. The tempo is marked as ♩ = 112. The key signature has one sharp (F#) and the time signature is 4/4.

Vocal melody and piano accompaniment for the first system on page 18. The piano part is marked *mf*. The lyrics are: うてよかんとうてホー ム ラン / よいかうたすな きよ ー だ しゃ / とぶぞとぼすぞ よいあたり

Vocal melody and piano accompaniment for the second system on page 19. The piano part is marked *mf*. The lyrics are: たまはそらのおをきる / ふたかまはかためたのしゆびのじかむ / ラン ナーでたでた いちるい / セン ター フラ イで うちと ゴ ロだそらでた に るい

へたろ やうや ままぐみ おおん えんだ

わしわした わしわした

子どもの野球

一
 打てよ、カンと打て、ホームラン。
 たまは 空の 青を切る。
 ランナー出た出た、一るいへ。
 山組応えん、わっしよ、わっしよだ。

二
 よいか、打たすな、強打者だ。
 深く固めた、守備の陣。
 センターフライで、うちとめた。
 海組応えん、わっしよ、わっしよだ。

三
 飛ぶぞ、飛ばすぞ、よいあたり。
 たまは てんてん 砂をかむ。
 ゴロだ、そら出た、二るいゴロ。
 山組チャンスだ、わっしよ、わっしよだ。

海

作詞作曲不明

♩ = 84
p mp

一まつばら とおく きーゆる ところ
二しまやま やみに しーるき あたり

mp

しらほの かーげは うーか ぶ
いさりび ひーかり あーわ し

mf

ほしあみ はーまに たかくして
よるなみ きーしに ゆるくして

p

かもめは ひーくく なみにとぶ みよ
うらかぜ かーろく いさごぶく みよ

mf

ひるのう み みよひるのう み
よるのう み みよよるのう み

見見いうゆるあいし島見見波かも高ほう白消まつ
よよさらるあさりる山よよにとめくしかほゆるつ
のの風く波しきやのよよとめくしかほゆるつ
夜のふくかして岸に火あたりに光、の海。ひくくはまに、
海。の海。ひくくはまに、

ハイドン



ハイドンは 1731年に、オーストリアのいなかで 生まれました。家はびんぼうで、十一人も兄弟がいましたが、たいへん音楽がすきでしたから、六才の時からおじさんの世話で、ピアノとバイオリンを始めました。

こうして 一生けんめいに勉強したおかげで、たくさんのおもちゃの交響曲や、「びっくり交響曲」などは、みなさんもよく知っているでしょう。

ハイドンは たいへん気軽な 面白い人でしたから、「ハイドンおじさん」といって、みんなから親しまれました。

第一楽章 おもちゃの こうきょうきょく (交響曲)

ハイドン 作曲

♩ = 120

第二楽章 後略

♩ = 96

カッコ笛

第三楽章 後略

♩ = 72

後略

祭りのたいこ

岡本敏明 作詞
ドイツ民謡

♩ = 100

The musical score is written in G major (one sharp) and 2/4 time. It consists of five staves. The first four staves are in treble clef, and the fifth is a grand staff (treble and bass clefs). The first staff is a drum line with four quarter notes, each labeled 'ドン'. The second and third staves contain the melody with lyrics 'まつりのたいこ' and 'むらからむらへ'. The fourth staff is another drum line with four quarter notes labeled 'ドン'. The fifth staff shows the bass line accompaniment.

ドン
ドン
ドン
ドン

村から、村へ、

祭りのたいこ。

ドン
ドン
ドン
ドン

祭りのたいこ

● 大だいこ
の長いぼ

● ひよ
タク
ら、

$\frac{4}{4}$
 $\frac{4}{4}$
 $\frac{4}{4}$

● これは 四拍
てみましょう

吉雄 作詞
五郎 作曲



しこきょうを
りださずに



して



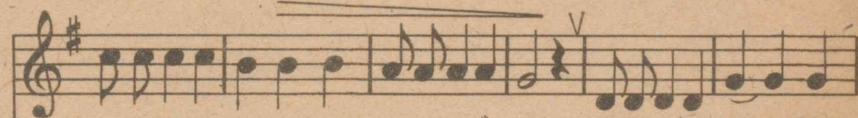
たこーとか
れこきょうは



$\text{♩} = 100$ おはなしするやうに



わからない 二みなさんおききよ こうなのさ
ゆかいだな 三こころのやさしいフレッドは



しょうじきもののフレッドを けちんぼのヘルマンが
たいじなおかねを きのどくな こじきにみんな



おいつか い あげくのはてにつきだした
めぐんだ が こじきとみたのめがみさま



くーれた おかね ははした が ねた
まほう の こきゅう を くださ った

f *D.C.*

おや おや ふしぎ、フレッドが、
うかれこきゅうを ひきだすと、
けちんぼヘルマンは おどりだし、
お金をみんな まき出した。
どうしたことか わからない。

二
皆さん お聞きよ、こうなのさ。
正直者の フレッドを、
けちんぼヘルマンが 追いつかい、
あげくのはてに つき出した。

三
心のやさしい フレッドは、
大事なお金を きのどくな、
こじきと見たの は めぐんだが、
まほうのこきゅうを くださった。

四
まほうのこきゅうが 鳴りだすと、
おどりださずには いられない。
うかれて お金を ばらまいて、
けちんぼヘルマンは また おどる。
うかれこきゅうは ゆかいだな。

浮れこきゅう (このこきゅうはバイオリンのことです)

● rit. は だんだんおそく、a tempo は もとの速さにするしるしです。この曲のおわりは どこでしょう。D.C. から はじめにもどり、で おわります。

メトロノーム

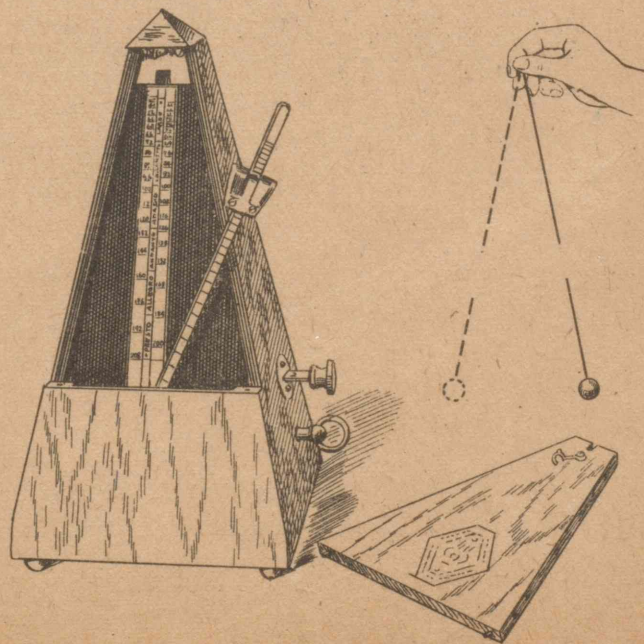
曲のはじめにかいてある ♩ = 120 や ♩ = 80 は何のしるしでしょう。これは 曲の速さをあらわします。一分間に いく打ちの速さで、うたったり ひいたりするかをしめす しるしです。メモリの数字にあわせて おもりを動かし、カチカチと音のする速さを ききましょう。

よく知っているうたの速さをおぼえていると、速さが よくわかります。また おもりをつけた糸を、長くしたり 短くしたりして、ふり子のように 右左に動かして、速さをはかることもできます。

30cmの長さの糸は 一分間に 104の速さで動きます。

メトロノームの速さにあわせて、糸の長さを しらべてみましょう。一分間に 80.100.120の速さになる糸の長さは 何cmでしょう。

メトロノーム



はぎ

作詞作曲不明

$\text{♩} = 116$
mp

一はぎはよあけのつゆのはな
二はきはつきよのかげのはな

mf

おりどをおせばほろほろとほろほろと
つきかけさせばゆらゆらとゆらゆらと

p

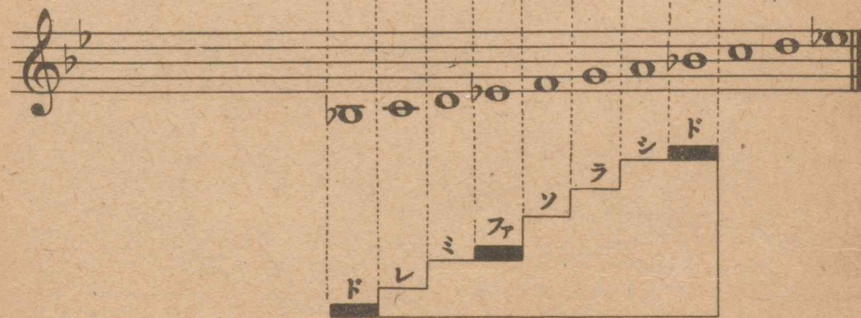
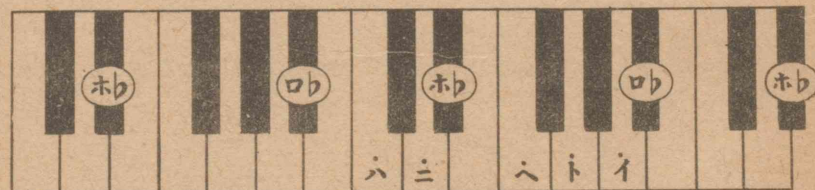
すえをおつるつゆのたま
うじのおもにゆるるかけ

はぎ

はぎは夜明けのつゆの花、
折戸をおせば、ほろほろと、
葉木をおつるつゆのたま。
ほろほろと、
はぎは月夜のかげの花、
月かげさせば、ゆらゆらと、
ゆらゆらと、
しょうじのおもにゆるるかけ。

変ロ長調の音階

変ロをドとしてはじまる音階を 変ロ長調といいます。なぜ
ファが変ホ音(ホ[♭])になるのでしょうか。けんばんをひき
ながらしらべてみましょう。調号もおぼえましょう。



ラ(リルレロ)

秋の山

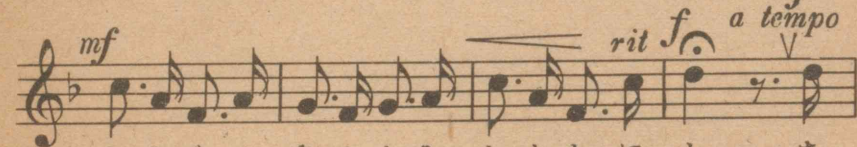
岩佐東一郎 作詞
スコットランド 民謡



一 みんなの すきなあ きがきた よ
二 はるか の えだで と りがなく よ



うたをう たってや まにのぼ る
ひびきや さしいた にのなが れ



もみじ いちめんみ ねもたにも あ
はやしを ぬけてあ しもかる く ゆ



おぞらの どかにな がれるく も
うやけあ かーいや まをくだ る

秋の山

— みんなのすきな
秋が来たよ。

歌をうたって、
山にのぼる。

もみじ いちめん、
みねも、谷も、
青空のどかに
流れる雲。

二 はるか
鳥が鳴くよ。

ひびき やさしい
谷の流れ。

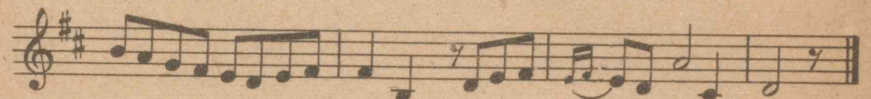
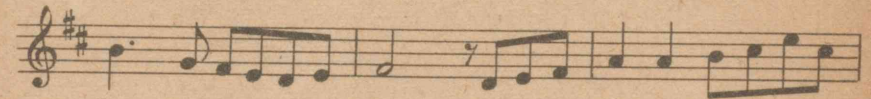
林をぬけて
足もかるく、

夕やけ赤い
山をくだる。

マドリガル

♩ = 96

シモネッティ 作曲



後略

●この曲をきいて どんな感じがしますか。

静か、のどか、勇ましい、おごそか、元気、さびしい、
のうち どれでしょう。

楽器は何でしょう。音色でききわけてみましょう。

●これは 四拍子のアクセントです。ききながら手を
うごかしてみましょう。



雲

村野四郎 作詞
グルック 作曲

mp $\text{♩} = 76$

一 なつ の くもよ きぼうの くもよ
二 あき の くもよ ゆめの くもよ

mf *p*

たかく しろく そらに わくよ
はるか とおく きえていくよ

消えていくよ。

はるか、とおく、
ゆめの雲よ。

秋の雲よ。

＝

空にわくよ。

高く、しろく、
希望の雲よ。

夏の雲よ。

— 雲

ミヌエツト

一回 鉄きん
二回 鉄きん
ハモニカ

グルック 作曲
早川宏三 編曲

mp $\text{♩} = 76$

鉄きん
ハモニカ

ふえ
木きん

トライアングル
すず

タンブリン
カ斯塔ネット

小だいこ
大だいこ

※ ピアノ
又は
オルガン

鉄きん
ハモニカ

ふえ
木きん

mf

一回目これから

一回目これから

一回目これから

※ ピアノとオルガンのうち どちらか一つだけでよい。

こきょうの人々

勝 承夫 作詞
フォスター 作曲

$\text{♩} = 72$
mp

一はるかなるスニィがわ そのしも
ニあせみちをたどりし おもいで

p

なつかしのかなたよわがふるさと
はらからとあそびしたのしきひよ

mp

たびぞらのあこがれはてなく
ゆめあまきうたごえむなしや

p *rit.* *a tempo*

おもいずふるさとふほこそあれ
ゆきていざくらさなははのもとに

mf

ながきとしつきたびにあれば(あれば)

p *rit.* *a tempo*

おつかれしわがむねふほをしたう



フォスター

フォスターは 1826年に アメリカで生まれました。小さい時から音楽と 絵が大好きでした。

子どもの頃、よくニグロの教会に行って、ニグロたちの歌を聞いたようですが、これがあの美しいふしを作るもとになったのです。

フォスターの作った歌は、どれも みんな なつかしいものばかりです。みなさんは その中で、どんな歌を知っていますか。

あぜ道をたどりしおもいで、
はらからと遊びし楽しき日よ。
夢あまき歌声、むなしや、ゆきていざ暮さな、
母のもとに。

(合唱) (くりかえし)

二

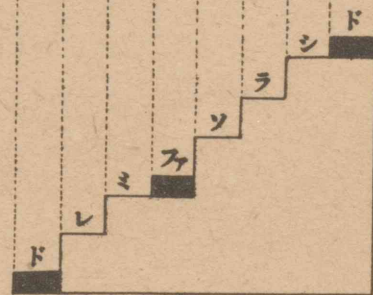
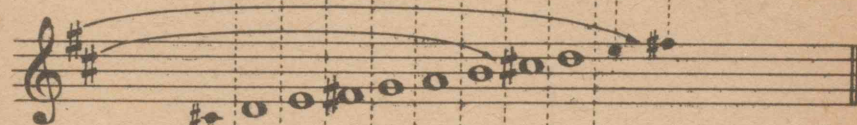
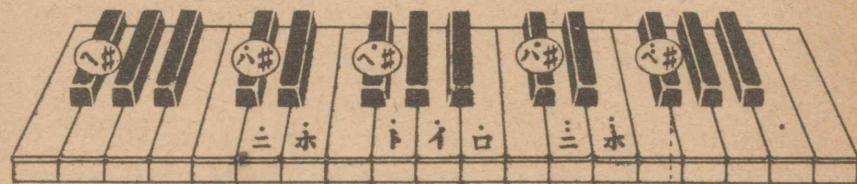
(合唱) ながき年月 旅にあれば、
おお、つかれしわが胸、父母をしたう。

はるかなるスワニー川、その下、
なつかしのかなたよ、わがふるさと。
旅空のあこがれはてなく、思いはずふるさと、
父母こそあれ。

一

こきょうの人々

二長調の音階



- きいたふしや、自分で考えたふしを 音符で書いてみましょう。作曲の よい けいこになります。知っているフォスターの曲をはじめの四小節だけ 書いてみましょう。
- 音符のたまとぼうの 書きかたに気をつけましょう。下のふは どころが わるいのですか。



- 音ぶのたま (符頭)
- 音ぶの棒 (符尾)

鉄きん

mf
ハモニカ

mf
カスツ
小大こ

思い出

古関吉雄 作詞
 ベイリー 作曲

♩ = 100

一かきにあかい はなさく いつかの あおいえ
 二しろいくもの うかんだ いつかの あおいえ

ゆめにかえる そのにわ はるかなむかし
 くさのひかる そのみち はるかなむかし

とりはうたい さえずり そよぐかぜに はなちる
 いまもうたう あのうた めにもうかふ あおぞら

むねにひめる おもいで はるかなむかし
 ひとりおもい わすれぬ はるかなむかし

思い出

かき — 赤い花さく
 いつかの あの家、
 ゆめに帰るその庭、
 はるかなむかし。
 鳥はうたい さえずり
 そよぐかぜに花ちる。
 むねに 祕める思い出、
 はるかなむかし。
 二 白い雲のうかんだ
 草のひかる そのみち、
 はるかなむかし。
 今もうたう あの歌、
 目にもうかぶ青空。
 ひとり 思い出れぬ、
 はるかなむかし。

冬景色

作詞作曲不明

♩ = 100
mf

一 さぎりきゆる みなとえの
二 からすなきて きにたかく

ふねにしろしあさのしも
ひとははたにむぎをふむ

mp mf

ただみずとりのこえはして
げにこはるびののどけしや

mp

いまださめずきしのい え
かえりさきの はなもみ ゆ

冬景色

一 さぎり消ゆる
みなとえの
船に白し、
朝のしも。
ただ水鳥の
声はして、
いまださめず、
岸の家。

二 からす鳴きて
木に高く、
人は畑に
麦をふむ。
げに小春日の
のどけしや。
かえりさきの
花も見ゆ。

●階名でうたいましょう。またことばをつけてみましょう。

ふゆげしき

モーツァルト



モーツァルトは 1759年
に オーストリアのザルツブ
ルグという町で生まれました。
小さい時、姉さんのアンナが、
おとうさんにピアノを習って
いるそばで、いつも ぎょう
ぎよく、熱心に聞いていまし

た。そして 五才の時には、かわいらしいミヌエットの作曲を
したのです。

七才の時、姉さんと二人で おとうさんにつれられて、ウィーン
へ演奏旅行をしました。あまりじょうずなので、どこでも み
んなびっくりしました。

たくさんの名曲を作りましたが、おいしいことに 三十五才で死に
ました。

ミヌエット

モーツァルト 作曲

♩ = 96

後略

とうだいもり

勝 承夫 作詞
イギリスの曲

mf ♩=120

こ おれる つ き かけ そ ら に さ え て
は げ し き あ め かせ き た の う み に

ま ふ ゆ の あ ら な み よ す る お じ ま
や ま な す あ ら な み た け り く る う

mp

お も え よ と う だ い ま も る ひ と の
そ の よ も と う だ い ま も る ひ と の

mf

と う と き や さ し き あ い の こ こ ろ
と う と き ま こ と よ う み を て ら す

●下のふしのつづきを作ってみましょう。また ふしにあうことばも作ってみましょう。

- 一段のふしと よく似たふしが 何度出ていますか。
- 今まで習った曲の中から こういう形の曲を しらべてみましょう。

とうだいもり

こおれる月かけ 空にさえて、
 ま冬のあら波 よする小島。
 思えよ、とうだい まもる人の
 とうとき やさしき 愛の心。

二

はげしき雨風 北の海に、
 山なすあら波 たけりくるう。
 その夜も、とうだい まもる人の
 とうとき 誠よ、海をてらす。

●六拍子は 六つの強弱のアクセントの波で 進みますが、また二つの波に数えて うたうこともできます。下の線のように手をふりながら、うたってみましょう。

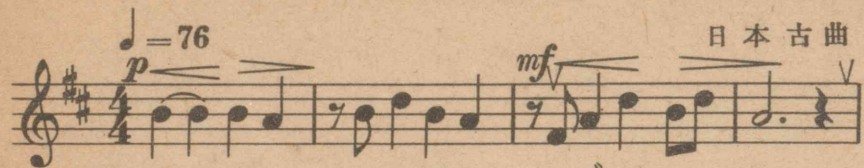
1 2 3 4 5 6 1 2 3 4 5 6 1 2 3 4 5 6 1 2 3 4 5

1 とと 2 とと 1 とと 2 とと 1 とと 2 とと 1 とと 2 とと

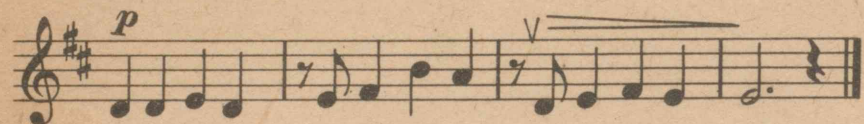
1 2 1 2 1 2 1 2

●この曲は どういう強さで はじまっていますか。

子もりうた



—し—ばの おりどの しずがや—に
 二おきなは や—まへ しばかり—に



おきなと おうなが すみにけり
 おうなは か—わへ きぬすすぎ

子もりうた
 — しばの折り戸の
 — しずがやに、
 二 おきなと、おうなが
 住みにけり。
 二 おきなは 山へ
 しばかりに、
 おうなは 川へ
 きぬすすぎ。

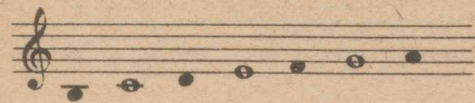


フレンチホルン

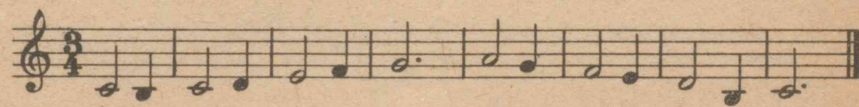
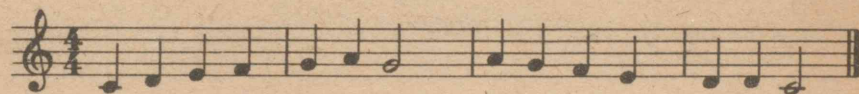


チェロ

●この和音の間と その上と下に どんな音があるか、しらべてみましょう。

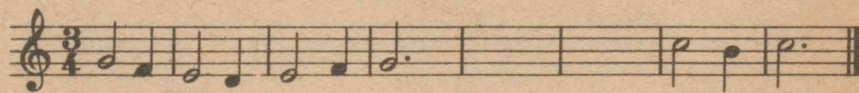


●和音の間にある ほかの音を加えて ふしを作ると、なだらかな美しいふしができます。

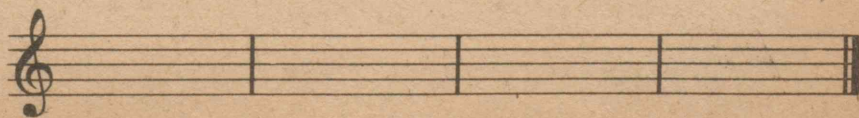
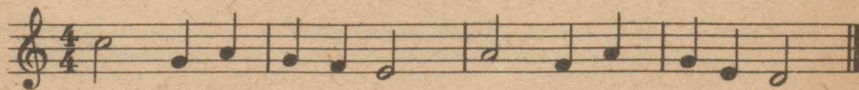


●拍子やリズムをかえて、いろいろに くふうして 作ってみましょう。

●あいているところを つなぎましょう。



●和音の音と音階の音とをまぜて、あとをつづけましょう。



スキイ

作詞作曲不明

mf >

♩ = 104

一ツラ ラ
ニツラ ラ
三ツラ ラ

mf >

ツツウ たのしい スキイ ゆき に ふたすじ
ツツウ たのしい スキイ つよ い さむさも
ツツウ たのしい スキイ ゆき は ふかいよ

mp > *mf* >

あとふみ つけて なが い スロープ たか い
つめたい かせも いつ かわす れ すべ り
みわたす かぎり ストック かざ し かせ を

mf >

お か すべりゃ ころろ か はれはれかる
だ す すべりゃ からだが ほかほかほて
きつ て すべりゃ こゆきが キラキラひか

f

1. 2. | 3.

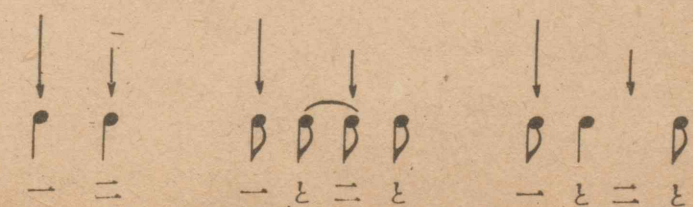
いる

1. 2. | 3.

は とおなじです

ツラ ラ ツラーラ

これを切分音といいます。♩とくらべて 二うち目が どこにあるか しらべてみましょう。



えんびつて つくえの上を ↓ ↓ とたたきながら うたつてみましょう。 > のある場所を しらべてみましょう。

す	ス	雪	ツ	す	い	強	ツ	す	長	雪	ツ	
べ	ト	は	ラ	べ	つ	い	ラ	べ	い	に	ラ	
り	ッ	深	ラ	り	か	寒	ラ	り	ス	二	ラ	ス
ゃ	ク	い		ゃ	わ	さ		ゃ	ロ	す		キ
	か	よ	三		す	も	二		ー	じ	一	
	こ	、	ツ		れ	ツ	ツ		心	プ	ツ	
	ゆ	し	ツ		ら	ツ	ツ		が	あ	ツ	
	き	見	ツ		だ	冷	ツ		高	と	ツ	
	が	わ	ツ		が	たい	ツ		は	お	ツ	
	風	た	ツ		べ	い	ツ		れ	み	ツ	
	を	す	ツ		り	風	ツ		お	つ	ツ	
	き	限	ツ		出	も	ツ		か	け	ツ	
	ら	り	ツ		す	、	ツ		ば	て	ツ	
	き	い	三		ほ	い	ツ		れ	、	ツ	
	ら	ス	ツ		か	スキ	ツ		か	スキ	ツ	
	光	キ	ツ		ほ	イ	ツ		る	イ	ツ	
	る	イ	ツ		か		ツ		い		ツ	
			三		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ		か		ツ				ツ	
			ツ		ほ		ツ				ツ	
			ツ									

春をよぶ

鳥居忠五郎作詞
岡本敏明作曲

♩ = 80 おちついて

p

—しら—うめさけば うぐ—いす
—かれ—くさふんで くち—ぶえ

p

mp *mf*

ないて はる—をよ—ぶ あ
ふいて はる—をよ—ぶ ひ

mp *mf*

1. 2. *rit.* *a tempo*

さ—の—に—わ—
る—の—の—べ—

春をよぶ

白梅さけば

うぐいす ないて

春をよぶ 朝の庭。

二

枯草ふんで

口ぶえ ふいて

春をよぶ 昼の野辺。



バスーン

野ばら

勝承夫 作詞
ウエルナー 作曲

♩ = 126
mp

一 わらべは みにたり のなかの ばら
二 わらべは よりぬ のなかの ばら
三 わらべは おりぬ のなかの ばら

mf p mp

あしたの べに きよらに かおり ゆめみる
いずみの ほとり かすかに さきて ゆめみる
ゆうべの きりに しとどに ぬれて ゆめみる

mf f

はな くれな い ふかき やさし の ばらよ
はな くれな い に おう いとし の ばらよ
はな くれな い か なし ちいさき ばらよ

野ばら

一 わらべは 見たり、野中のばら。
あしたの野べに、きよらにかおり、
ゆめみる花。

二 わらべは よりぬ、野中のばら。
いずみのほとり、かすかにさきて、
ゆめみる花。

三 わらべは おりぬ、野中のばら。
くれなにおう、いとしのばらよ。
ゆうべのきりに、しとどにぬれて、
ゆめみる花。

くれなかなし、小さきばらよ。



ピアノ三重奏

ピアノとバイオリンとチェロのがつそを、
ピアノ三重奏といいます。音色のちがった
三つの楽器が、ふしをひいたり、和音をひびかせ
たりするのをききますと、合唱するのとはべつの
面白さをかんじます。

み だ し

楽ふの読みかた

5. 13. 17. 28. 31. 39. 46.

歌いかた

5. 6. 9. 11. 13. 31. 46. 49.

器楽の練習

10. 12. 18. 25. 35. 42.

リズムの練習

25. 29. 33. 49. 51. 53. 55. 56.

作曲の練習

9. 11. 13. 17. 39. 46. 48. 51. 53.

音楽のかんしょう

14. 15. 23. 33. 47. 57.

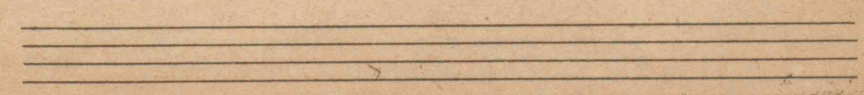
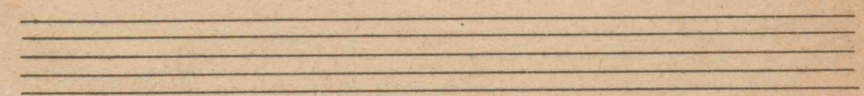
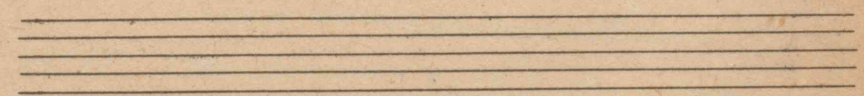
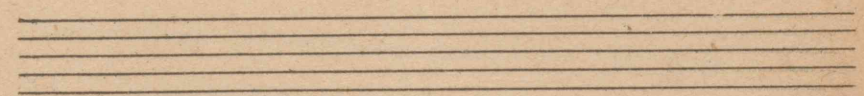
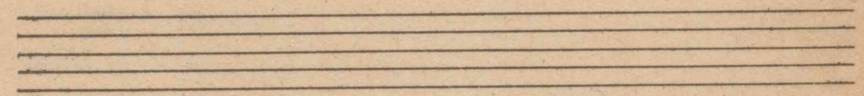
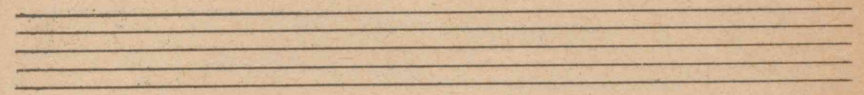
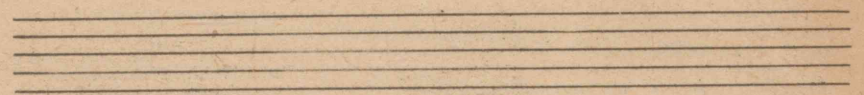
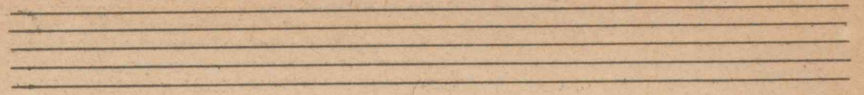
楽ふのちしき

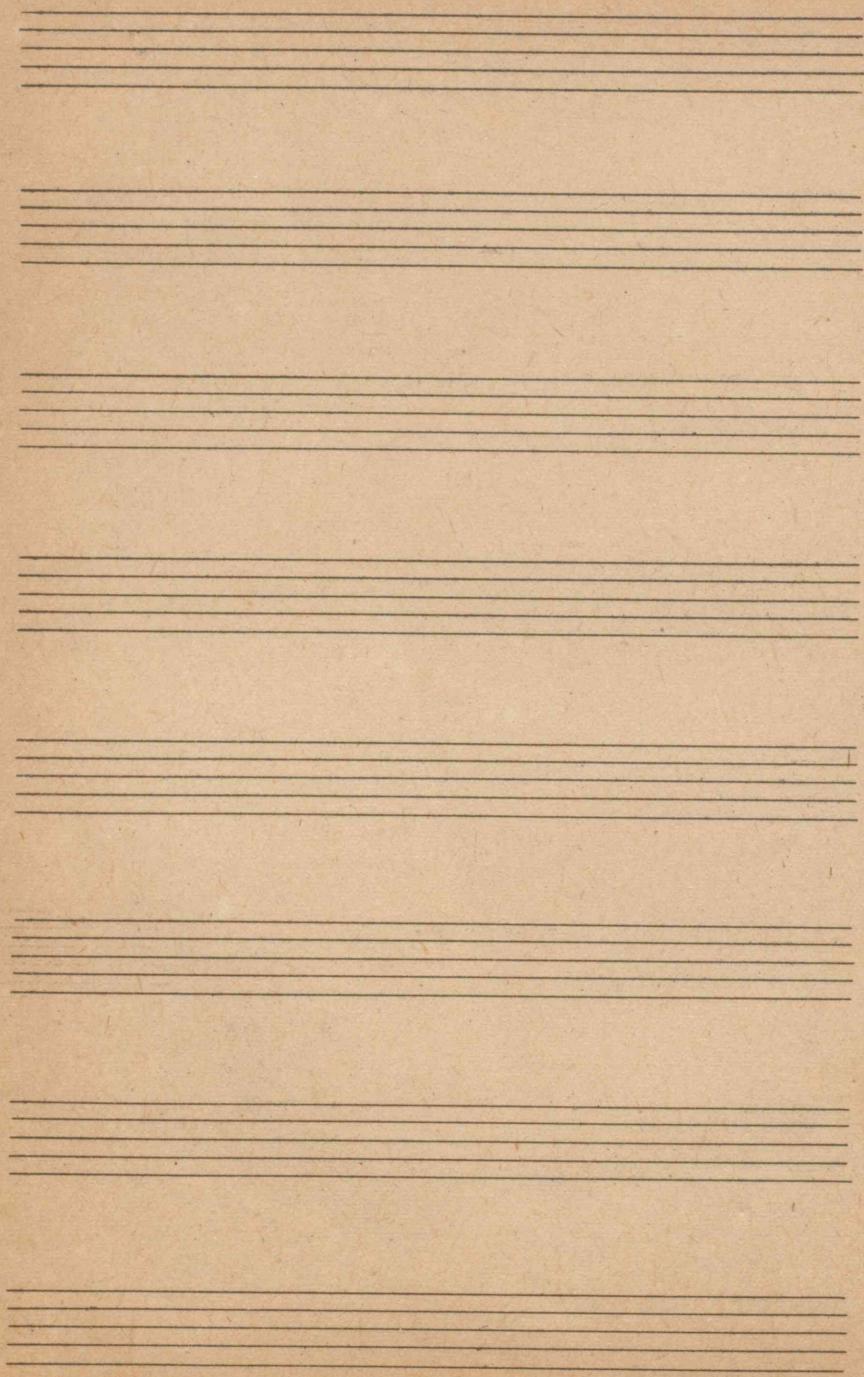
4. 5. 7. 14. 17. 28. 39. 55.

絵

1. 7. 15. 23. 29. 31. 38. 39. 47. 50.

56. 59. 61.





10	小音506
春陽	

新しゝ音楽 小学五年

(総紙数64頁)

昭和25年 月 日 印刷
 昭和25年 月 日 発行

APPROVED BY MINISTRY
 OF EDUCATION
 (DATE 1950)

著 者 鳥 居 忠 五 郎
 ◆ 中 野 義 見
 ◆ 小 島 喜 久 壽
 ◆ 岡 本 敏 明
 東京部中央区日本橋通三丁目8番地
 発 行 者 株式会社 春 陽 堂
 代 表 者 和 田 欣 之 介
 東京部大田区田園調布一丁目1314番地
 印 刷 者 株式会社 金 羊 社
 代 表 者 浅 野 剛

発 行 所 東京部中央区 株式会社 春 陽 堂
 日本橋通三丁目

